飯沢耕太郎（写真評論）、白簱史朗（山岳写真）、広河隆一（フォトジャーナリスト）…

現代写真人名事典

東京都写真美術館監修シリーズ

A5・600頁　定価（本体12,800円＋税）　ISBN978-4-8169-1949-7　2005年12月刊行

時代を切り撮る写真家の業績・連絡先までわかります！

報道、広告、アート、評論等で活躍中の1,512人

・現在、日本で活躍する写真関係者のプロフィールがわかる人名事典です。
・報道カメラマン、芸術写真家から学術写真専門家、写真史研究家、評論家など写真に関わる人物を幅広く収録しました。

本人回答による最新情報を掲載

・各人物には、生年月日、出身地、肩書、学歴だけでなく、代表作、受賞歴、活動分野、連絡先まで、すべて本人へのアンケートに基づく最新情報を掲載しています。
・写真展を企画したい、制作を依頼したい、経歴・代表作品を知りたい、という時に便利です。

【収録人物例】

浅井 愼平／荒木 経惟／石川 文洋／井津 建郎／伊藤 俊治／今井寿恵／今森 光彦／岩合 光昭／牛尾征治／梅棹 忠夫／海野 和男／榎並 悦子／江成 常夫／大倉 舜二／大西 みつぐ／岡井 耀毅／木之下晃／熊切 圭介／倉田 精二／操上和美／栗林 慧／桑原 史成／坂田栄一郎／沢田 教一／沢渡 朔／白川 義員／杉本 博司／高村 規／竹内 敏信／土田 ヒロミ／東松 照明／常盤 とよ子／並河 萬里／楢木逸郎／奈良原 一高／英 伸三／平間 至／藤代 冥砂／藤原 新也／細江 英公／増田 彰久／松本 徳彦／宮嶋 茂樹／桃井 和馬／森山 大道／吉田 ルイ子

……など1,512人

東京都写真美術館監修シリーズ

日本の写真家
―近代写真史を彩った人と伝記・作品集目録
●写真伝来以降、写真史に名を残す写真家・写真評論家など839人
B5・490頁　定価（本体9,500円＋税）　ISBN978-4-8169-1948-0　2005.11刊行

写真レファレンス事典 人物・肖像篇
●幕末から現代まで代表的な人物写真18,902点の収載写真集を調べられる写真索引
B5・880頁　定価（本体42,000円＋税）　ISBN978-4-8169-1904-6　2006.3刊行

2017.12

お問い合わせは…　**日外アソシエーツ　営業局**　TEL.03-3763-5241（代）　FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16　http://www.nichigai.co.jp/

■貴店名	注文書	現代写真人名事典 定価（本体12,800円＋税）　ISBN978-4-8169-1949-7	冊

『現代写真人名事典』内容見本

荒木　経惟
あらき　のぶよし

写真家
昭和15年5月25日～

【出生地】東京都台東区三ノ輪
【家族】妻＝荒木陽子（エッセイスト・故人）
【連絡先】〈AaT ROOM〉 〒[redacted] 【tel】[redacted]
【URL】http://www.arakinobuyoshi.com/
【学歴】千葉大学工学部写真印刷工学科〔昭和38年〕卒
【経歴】昭和38年電通に入社、写真部に所属。39年写真集「さっちん」で第1回太陽賞を受賞し、注目を浴びる。46年電通社員・青木陽子と結婚、新婚旅行のすべてを撮った「センチメンタルな旅」を自費出版、スキャンダラスな話題となる。47年電通を辞めフリーに。ごく普通の女たちの性を追った“私写真”シリーズの、素人がかった作風が人気となる。平成2年陽子夫人を子宮肉腫で失い、遺体の写真まで収めた「センチメンタルな旅・冬の旅」を刊行。4年写真展「写真狂日記」の展示作品が猥褻容疑で押収された。5年陽子夫人と最後の共著「東京日和」を出版。14年全国47都道府県を回って日本人の顔を撮るプロジェクト“日本人ノ顔”をスタートさせる。17年森山大道との写真展「森山・新宿・荒木」展を開催。他の主な写真集と著作に「男と女の間には写真機がある」「わが愛・陽子」「劇写・女優たち」「偽ルポルタージュ」「偽日記」「写真生活」「東京エレジー」「私が写真だ」「写真論」「天使祭」「人町」「ARAKI」「男の顔面」「森山・新宿・荒木」、「荒木経惟文学全集」「荒木経惟写真全集」(平凡社，全20巻)などがある。通称“天才アラーキー”。
【賞】太陽賞(第1回)〔昭和39年〕「さっちん」，東川賞(国内作家賞，第7回)〔平成3年〕，日本文化デザイン会議賞(大賞)〔平成6年〕，織部賞(第2回)〔平成11年〕

江成　常夫
えなり　つねお

写真家
昭和11年10月8日～

九州産業大学大学院教授，ニッコールクラブ会長
【出生地】神奈川県相模原市
【専攻】[redacted]
【所属団体】日本写真協会，日本写真家協会，日本写真芸術協会
【連絡先】〈九州産業大学〉 〒[redacted] 【tel】[redacted]
【趣味】映画鑑賞，園芸
【座右の銘】表現にとって「技巧は本質を曖昧にする」
【写真を始めた動機】映画
【好きな写真家・作品】土門拳「ヒロシマ」
【好きな映画・本・音楽】黒澤明「羅生門」，今井正「キクとイサム」
【学歴】東京経済大学経済学部〔昭和37年〕卒
【経歴】昭和37年毎日新聞社入社。写真部、横浜支局、出版写真部を経て、49年フリー。この年に渡米、翌年までニューヨークに滞在し、52年「ニューヨークの百家族」で日本写真協会新人賞を受賞。この後、米国、 中国での日本人の存在をテーマに取材を重ね、55年 「花嫁のアメリカ」、59年「シャオハイの満洲」を刊行。「シャオハイの満洲」では長文のルポ記事を書き、取材・撮影・文すべてを自身の手で行う“フォト・ノンフィクション”を確立した。平成7年写真展「まぼろし国・満洲」「ヒロシマ 万象」を開催し、写真集「まぼろし国・満州」と朝鮮人を含む被爆者の証言集「記憶の光景・十人のヒロシマ」を発表。以後、主に昭和の戦争にかかわる庶民をテーマに写真活動を続ける。他の写真展に昭和51年「家族・ニューヨーク」(新宿ニコンサロン)、53年2人展「ヤーニンジュ・OKINAWA」(銀座ミキモトホール)、55年「花嫁のアメリカ」(銀座ニコンサロン)、59年「小日本人」(銀座ニコンサロン)、60年「シャオハイの満洲」(銀座ニコンサロン)、平成12年「昭和史の風景 花嫁のアメリカ／シャオハイの満洲／ヒロシマ 万象」(東京都写真美術館)、17年「昭和史の風景 偽満洲国／鬼哭の鳥」(銀座・新宿ニコンサロン)。
【代表作】「ニューヨークの百家族」(平凡社)〔昭和51年〕，「花嫁のアメリカ」(講談社)〔昭和56年〕，「百肖像」(毎日新聞社)〔昭和59年〕，「シャオハイの満洲」(集英社)〔昭和59年〕，「ニューヨーク日記」(平凡社)〔平成1年〕，「まぼろし国・満洲」(新潮社)〔平成7年〕，「ヒロシマ 万象」(新潮社)〔平成14年〕，「花嫁のアメリカ 歳月の風景 1978-1998」(集英社)〔平成14年〕
【賞】日本写真協会賞新人賞〔昭和52年〕「ニューヨークの百家族」，木村伊兵衛写真賞(第6回)〔昭和55年〕「花嫁のアメリカ」，毎日広告デザイン賞(第52回)〔昭和59年〕，土門拳賞(第4回)〔昭和60年〕「シャオハイの満州」，毎日芸術賞(第37回，平7年度)〔平成8年〕「まぼろしの国・満州」「記憶の光景・十人のヒロシマ」，神奈川文化賞〔平成13年〕相模原市[redacted]〔平成13年〕

趣味、
座右の銘、
写真を始めた
動機、
好きな写真家
…etc.

肩書、出生地、連絡先、学歴・経歴、代表作、受賞歴など
本人へのアンケートに基づいた実用的な最新情報を記載